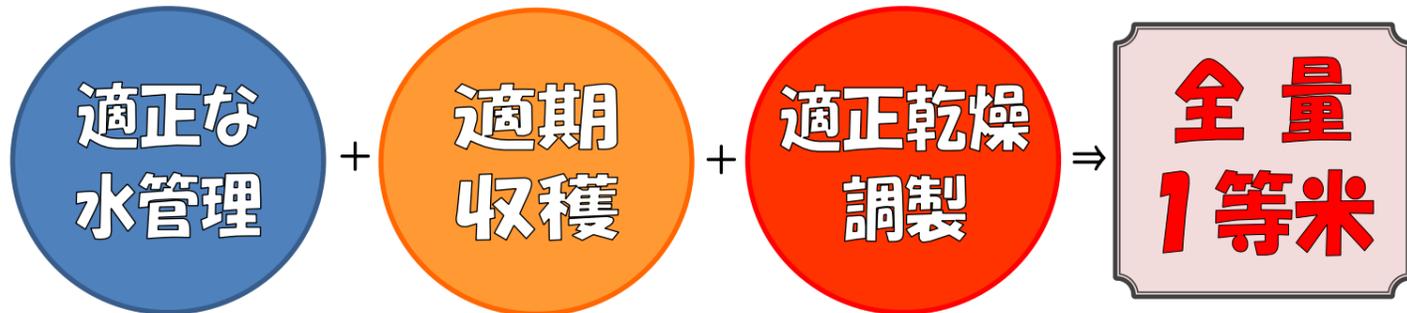




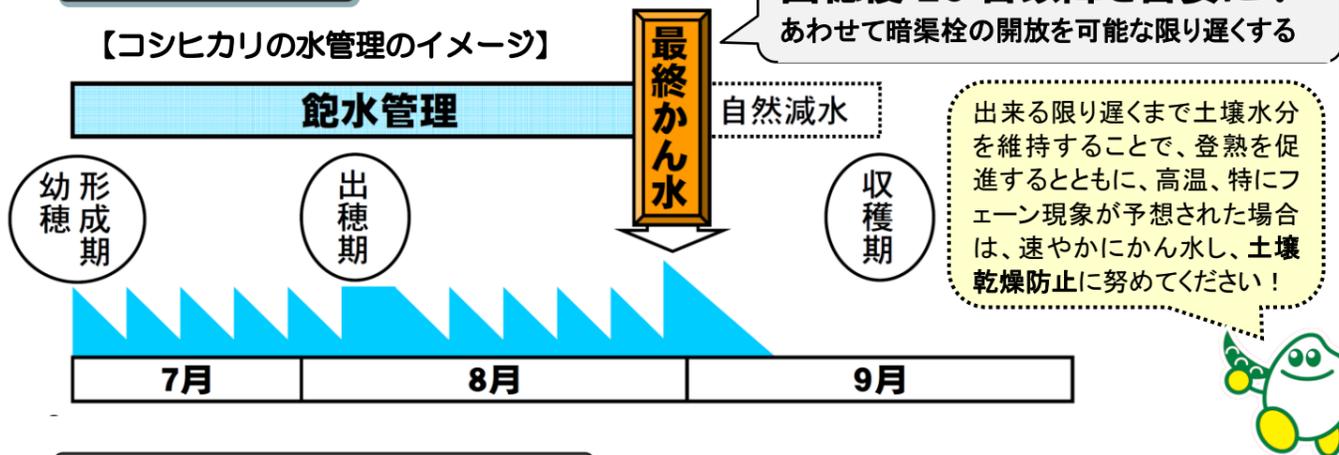
1等級比率目標:90%以上/10a当たり収量目標:510kg(コシヒカリ)

平成27年 8月19日

### 目指せ！1等級比率90%以上!!



#### 1. 今後の水管理



#### 2. 適期収穫と適正な乾燥・調製

##### (1) 出穂期と刈取適期(予想) (平成27年8月18日現在)

品種名	出穂期	刈取適期(予想)	積算温度の目安
五百万石	7月16日～7月23日	8月19日～8月26日	925℃
たかね錦	7月25日～7月28日	8月29日～9月1日	
わたぼうし	7月19日～7月24日	8月22日～8月27日	
ゆきん子舞	7月23日～7月27日	8月27日～8月31日	
こしいぶき	7月24日～7月28日	8月28日～9月1日	950℃
ゆきの精	7月25日～7月29日	8月29日～9月2日	
ゆきみのり	7月17日～7月24日	8月21日～8月28日	1000℃
こがねもち	7月25日～7月31日	8月30日～9月5日	
コシヒカリ(移植)	7月30日～8月6日	9月6日～9月16日	1025℃
コシヒカリ(直播)	8月7日～8月14日	9月17日～9月26日	
越淡麗	8月8日～8月14日	9月19日～9月27日	

※ 刈取適期(予想):長岡アメダスデータの積算で算出(8月18日までは本年値、以降は平年値)

※ あくまでも目安ですので、ほ場ごとの出穂期や今後の天候等により前後します。刈取適期(予想)を参考に、必ずほ場ごとに実際の黄化割合を確認し、収穫適期を判断して下さい。

※ 熟粒や立毛割れ粒の発生が懸念されます。基部未熟粒は出穂後の平均気温が高く、基部未熟粒や立毛割れ粒の発生が懸念されます。基部未熟粒の発生が懸念されます。

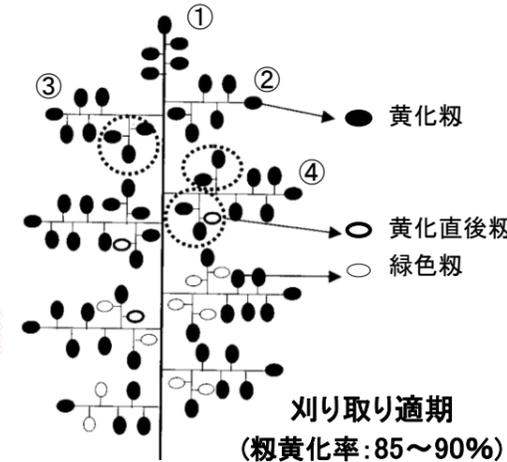
### 適期収穫!

#### (2) 実際の収穫適期の判断

収穫適期は、黄化割合が85~90%程度になった頃(上位3~4本目の1次枝梗に着生する2次枝梗が黄化した頃)です。

栽培条件等により、ほ場ごとに収穫適期が前後します。早刈り・刈遅れにならないよう必ずほ場ごとに黄化割合を確認し、収穫適期を判断して下さい。

出穂後の積算温度【左下表】を参考に、実際に稲の黄化程度を確認し適期に刈り取りましょう!



- ✗ 早刈り → 青米・未熟粒の混入増加、収量低下
- ✗ 刈遅れ → 着色米・胴割米の増加(高温年:基部未熟粒の増加)、倒伏助長

#### (3) 乾燥

- ◇ 収穫後は籾を速やかに乾燥機に搬入・通風し、ヤケ米を防止しましょう。
- ◇ 毎時乾減水分は0.5~0.6%としましょう。0.8%を超えると、胴割米の発生が多くなります。→ 成熟期~収穫期の高温等により、立毛割れが予想される場合は、毎時乾燥速度が0.5%以下になるよう送風温度を低く設定するとともに、過乾燥には十分に注意してください。特に、早生品種では登熟期前半が高温となったことから注意が必要です!
- ◇ 仕上げ水分は14.5~15.0%に仕上げましょう。→ 過乾燥は胴割れ・食味低下、仕上げ水分15.0%以上は、玄米水分の戻りによるカビ米の発生原因となります。  
※平成27年産米より検査時の水分値が15.5%以下であることがJA米要件となりました!

#### (4) 調製

- ◇ ふるい目は1.85mm以上(五百万石・たかね錦・越淡麗:2.0mm以上)とし、未熟粒や被害粒が多い場合には、必要に応じて1.90mmのふるい目や色彩選別機を活用して整粒歩合の向上に努めましょう。
- ◇ 適正な流量による丁寧な選別を徹底し、籾・精米や異物混入を防止しましょう。

#### (5) 異品種・異物混入防止対策

クサナム・ヒエ等の雑草除去や農業機械の整備・清掃の徹底により、虫や異種穀粒混入を防止しましょう。→ 特に、品種切替えの際は必ず農業機械の掃除を徹底してください!

平成26年産  
刈取・乾燥・調製ミスが主要因と推察される格落数量

もみ混入	696俵	精米混入	55俵
胴割粒	379俵	部分ヤケ	41俵
水分過多	327俵	うるち混入	18俵
もち混入	89俵	異物	2俵

平成26年産においても、刈取・乾燥・調製ミスが主要因と推察される格落ちが多く見られました。

最後まで気を抜かず、残された技術対策を徹底しましょう!



~~営農情報のお問い合わせは、お気軽に最寄りの営農センターへ~~

次回稲作情報:9月中旬「稲わら秋すき込み、土づくり」(予定)